

## 令和4年6月定例会 産業労働企業委員会の概要

令和4年7月1日（金）

令和4年6月定例会 産業労働企業委員会における発言

### 平松委員

1 同じく「3 県内観光関連事業者への支援」について、バス利用の需要喚起のため、県内を巡るバスツアーを造成した県内旅行事業者に対し補助を行うということだが、「ア 県内旅行事業者のバスツアー造成に対する補助」の補助額はどのような根拠に基づいて決定したのか。

2 県内観光関連事業者に対する補助に関し、知事の提案説明で「魅力的なバスツアーの造成」という表現があったと思うが、「魅力的なバスツアー」の定義はあるか。

3 困っている観光バス事業者の方に着目し、こういった取組をされるということは評価をしたいが、そういった意味でも、本事業の効果を上げてもらいたい。造成されたバスツアーについて県としてPRをしていくことについて現時点では検討を進めていないかもしれないが、県としても補助を出している事業でもある。公平性、公正性を担保しながらも、県の観光関連のホームページ等でPRをしていくことはできないか。

4 この事業の実施により、どのような効果が見込まれるか。

### 観光課長

1 補助額については、群馬県や栃木県、あるいはその他の県も含めて参考にするとともに、旅行事業者の意見を聞き、政策的な誘導効果が見込まれるかを踏まえて決定した。

2 「魅力的なバスツアー」の定義について、具体的に定めていないが、バスツアーに多くの参加者からの申込みが見込まれ、実施後の満足感が高いツアーを想定している。

3 元々は、バスの安全性やバスで観光地を回る魅力などについて県公式観光サイト「ちょこたび埼玉」で発信していくことを検討していたが、委員の指摘を受け、発信力に課題のある中小零細の旅行事業者にも配慮し、補助対象のツアーを多くの方に知ってもらうという観点から、併せてホームページで紹介するよう検討する。

4 事業の効果については、二つの効果を考えて制度設計を行った。一つは、落ち込んでいるバスツアーの需要を喚起することである。そのために、旅行者がバスツアーに行きたいというマインドの醸成を図っていきたいと考えている。もう一つは、原油価格 高騰と関連し、観光バスを走らせても燃料が高くと収益性がなかなか確保しにくいという状況があるので、この負担軽減を図り、経営改善につなげていただきたいと考えている。

### 平松委員

バスの安全性のPRについては公式サイトでしっかり発信をしていくということである

が、今また新型コロナウイルス感染症の陽性者数も増加傾向にあるという状況下で、例えば アウトドアやマイクロツーリズム、少し外れるかもしれないがワーケーションなどについて、感染不安から団体での行動などを控えているという現実もあると考える。安全性のPRについてはしっかり取り組んでほしい。(意見)